

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立志摩高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿		○「自律・協調・敬愛」の校訓のもと、生徒一人ひとりの希望がかなう確かな進路実現に向けて、「チーム志摩高」として教職員が一丸となって取り組む学校 ○志摩地域唯一の普通科高校として、地域と連携・協働し、地域に貢献し、地域に愛され、地域とともにある学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	○地域に貢献したいという意欲を持つ生徒 ○自律・協調・敬愛の精神を持って社会で活躍できる生徒
	【グラデュエーション・ポリシー】	
	ありたい教職員の姿	○目指す学校像実現に向け、生徒一人ひとりの多様な個性に対応し、基礎学力をはじめとする生徒の「生きる力」を育むとともに、自らも成長し続ける教職員 ○常にコンプライアンス意識を持ち、人権尊重の精神を根幹に据え、命を大切にする心を育てる教育を実践する教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 友人や教職員とともに安心して学び、充実した高校生活を送りたい。また、実社会において必要となる基礎的基本的な学力を身につけたい。 <保護者> 子どもたちが安心して学び、変化の激しい社会の中で対応できる力を身につけてほしい。 <地域> 地域唯一の普通科高校として、地域学習の充実や地域のイベント等に本校生徒が多数参加するなど、地域理解をさらに深め、地域に貢献できる人材を育ててほしい。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<保護者> 基礎学力の定着に加え、希望進路実現に向けた丁寧な指導をしてほしい。 <中学校> 個々の生徒の進路希望が実現するよう、丁寧な指導をしてほしい。 <地域> 志摩高校で地域のことを学び、地域の役に立ちたいという生徒を育ててほしい	<家庭> 本校の教育方針を理解し、生徒の指導において協力して取り組んでほしい。 <中学校> 本校の教育内容や取組、生徒の姿を中学生に積極的に知らせてほしい。 <地域> 本校の教育活動を理解し、様々な個性を持つ生徒が地域で活躍できる場を提供してほしい
(3) 前年度の学校関係者評価など	・ ホームページやSNSは興味関心といった直接的な動機がないと見ないため、中学生や保護者に直接的なアプローチが必要なのではないか。 ・ 生徒に対する細やかな指導がこの学校の良いところである。そういった良い部分をもっと積極的に伝えてほしい。中学生が進路先に迷っているときに後押しができるよう中学校の先生には特にアピールするとよいのではないかな。 ・ 支援の必要な生徒に対応することは必要であるが、現数職員だけで対応するのは職員の疲弊につながってしまう。一人ひとりの生徒が充実した教育を受けられるように、外部の力も借りる必要があるのではないかな。 ・ 生徒が日々の学校生活をイキイキと楽しく過ごしていることが、志摩高校の魅力であるので、そのことをもっと発信してほしい。	

(4)現状と課題	教育活動	・生徒は志摩市とその隣接市町から通学している。個々の生徒の学力差が大きく、一部の教科では習熟度別授業を展開するなど、生徒が理解できる授業づくりのために工夫を続ける必要がある。 ・普通科の中にコースを設置し、2・3年生では生徒の進路希望に対応した教育活動を行っている。確かな進路実現につなげるため、担当教員だけでなく、全教員で生徒の学習習慣の定着と学力向上に取り組む必要がある。 ・全校生徒が所持する一人一台学習端末を活用した教育活動をさらに進めるため、教員スキルの向上が望まれる。
	学校運営等	・地域から「選ばれる学校」となるため、進路実現に向けた教育活動や地域と連携した取組をさらに充実させるとともに、生徒がイキイキと活躍する場面を地域の中学生や保護者に対し情報を発信し、地域から愛される学校にしていかなければならない。 ・地域や保護者から信頼され生徒が安心して学べる学校であるために、教職員のコンプライアンス意識及び人権感覚を高めていく必要がある。 ・小規模校の良さを最大限の活かし、全教職員が情報共有と意思疎通を図りながらチームで対応できる体制を固める必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・基礎学力を向上させ、生徒の進路希望に応じた学習指導を行うとともに、創造的・論理的に考える力を育む学びを進め、より高度な学力獲得を目指す生徒にも応える体制を整える。 ・社会生活を営む上で欠かせない社会常識と行動力を身につけた、即戦力となる人材を育てる。 ・地域探究学習「志摩学」や地域と関わる活動を通して、地域の実情を理解し、地域と連携し活性化に取り組む姿勢を育てる。
学校運営等	・生徒一人ひとりが確かな学力と豊かな心を確実に身につけることができるよう、全教職員によるきめ細かな学習指導や進路希望に対応したキャリア教育の推進、生徒が安心して学び個々の存在や思いが大切にされる学校づくりに向けた人権教育の充実を図る。 ・地域や小中学校等とともに、学校と地域の活性化、魅力化を図り、「地域から信頼され選ばれる学校」としての地位を確立する。 ・教職員が学校の目的を共有し課題解決に向けて共通理解を持って取り組むとともに、組織の業務内容を見直し、意欲的に業務に取り組める働きやすい職場環境づくりに取り組む。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・目標を持って学習する意欲ある生徒 ・興味関心を持った課題について探究しようとする生徒 ・基本的な生活習慣と思いやりの心が身についた生徒
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習活動の充実	(1)一人一台学習端末の活用を計画的に進め、わかりやすい授業づくりに取り組むとともに、放課後学習タイム「マナビバ」では全教員が基礎学力向上と自学自習による学習習慣の定着を目指す。 【成果指標】アンケートで「授業内容が理解できる」と答えた生徒の割合 95%以上 (2)全教員に対して、生徒による授業評価を実施する。 【活動指標】生徒による授業評価 年2回以上	(年度末および適宜記載)	◎
キャリア教育の充実	(1)第一志望の学校、企業への進路実現を図る取組を充実させる。 【成果指標】第一志望先への進路が実現した生徒の割合 90%以上 (2)上級学校への進学を目指す生徒に対して、個々に応じた指導に組織として取り組む。 【成果指標】国公立大学への進学者 年1名以上 (3)外部講師を招いた進路に関する説明会の開催など、計画的に生徒が自らの進路を考える機会を設ける。	(年度末および適宜記載)	※ ※
人権教育の充実	(1)教育活動の様々な場面で3年間を通した系統的な人権教育を行い、生徒一人ひとりの人権意識を高め、安心して学習できる生徒集団とする。 【成果指標】アンケートで「安心して学習できる」と答えた生徒の割合 95%以上 (2)いじめアンケートや個別面談等、日頃からの丁寧な生徒状況の把握により、いじめの早期発見に努めるとともに、自尊心を持ち、他者を尊重し、命を大切にする心と態度を養う取り組みを充実させる。 【成果指標】本校における「いじめによる重大事態」発生なし (3)生徒人権委員会が中心となり、生徒が主体的に人権について学び考える活動を行う。	(年度末および適宜記載)	※ ◎ ※
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
地域とともに ある学校 づくり	地域との連携を深め、地域に志摩高校の魅力を発信し、 選ばれる学校づくりに取り組む。 ・地域の行事・イベント等への生徒・教職員の参加 ・地域探究学習「志摩学」成果発表会を実施 ・学校ホームページ・Instagramを随時更新し、最新 の情報を提供 ・志摩高校の活動を地域に知ってもらうイベントの開催 ・志摩高校の特色ある取組を報道機関へ資料提供 【成果指標】地域の活動に参加した生徒の割合 50%以上 【活動指標】Instagramの更新 50 回以上 【活動指標】報道機関への情報提供の回数 15回以上	(年度末および適宜記載)	◎
信頼される 学校づくり	(1)「学校信頼向上委員会」において本校の課題を洗い 出し、「信頼される学校であるための行動計画」に基づ いて研修等を行い、コンプライアンス意識を高め、人権 感覚あふれる学校づくりに取り組む。 (2)教職員間のコミュニケーションを密にし、常に情報 共有できる体制を整え、互いに協力し合える職員集団 をつくる。 【成果指標】本校教職員によるコンプライアンス違反なし 【活動指標】セルフチェックシート等を利用して、情報の 管理状況の点検 年1回以上	(年度末および適宜記載)	※ ※
働きやすい 職場環境づ くり	(1)総労働時間の縮減に向け、時間外在校等時間の削減 を図る。 【成果指標】 ・一人当たりの月平均時間外在校等時間 15 時間以下 ・時間外在校等時間が年 360 時間を超える教職員数 0 人 ・時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員数 0 人 (2)長期休業期間中に学校閉校日を設定するなどによ り休暇等を取得しやすい雰囲気、環境を作る。 【成果指標】一人当たりの年間休暇取得日数 25 日以上 (3)月 1 日以上の定時退校日、週 1 日以上の部活動休 養日を設定し、総労働時間の縮減につなげる。 【活動指標】 ・定時退校日に定時に退校した職員の割合 95%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 95%以上 (4)各種会議の時間短縮・効率化を図る。 【活動指標】放課後に開催して 60 分以内に終了した会議 の割合 90%以上	(年度末および適宜記載)	※ ※ ※
改善課題			

(年度末に記載)

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	(年度末に記載)
-----------------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	(年度末に記載)
学校運営について の改善策	(年度末に記載)